

須賀川の「ファーストヘルステック」

×

福大理工学類の樋口良之教授

A Iで靴の中敷き設計

システム開発

靴の中敷きや義肢装具を製作販売する「ファーストヘルステック」（本社・須賀川市）と福島大共生システム理工学類の樋口良之教授は、人工知能（A I）を使って中敷きを設計するシステムを共同開発した。生活習慣などで生じる足裏のゆがみの予防や改善に役立て、高齢者から子どもまで幅広い世代の「足の健康」を守る。



A Iを活用し足の健康を守ると意気込む熊田社長

同社が手掛ける医療用中敷きは、足のゆがみによる不調と診断された患者に対し、足の形を矯正するため使われている。熊田新次社長（左）は予防に向けても中敷きの活用を促したかったが、生産性を向上させる上で、現状の製作過程では均質化が難しいという課題があった。

設計にA Iを利用するシステムを導入することで科学的根拠が担保でき

「足の健康」を守る

樋口教授がA Iの基本設計を担当した。希望者にコンピューターにつながれたフリーストの上を歩いてもらい、足裏の圧力のかかり方を計測する。測定結果に基づき、A Iが中敷きの型を提示する。型を元に義肢装具士が完成させる。A Iには健康な足の人や、異状が見られる人など千五百人分のデータを学習させようと試みている。今後、より多くの学習を積み上げ、二〇二二（令和四）年度の実用化を目指す。熊田社長は「企業に福利厚生として取り

る上、足裏の計測がスムーズになり生産性の向上が見込めるという。中学生や高校生、立ち仕事に励む従業員ら幅広い世代にオーダーメイドの中敷きを広めたい考えだ。

入れてもらうなど全国的に展開していきたい。多くの人に「足の健康」に目を向けてもらいたい」とした。「扁平（へんぺい）足」と診断され、医療用中敷きを三カ月履いて改善された棚倉町の六十代会社員男性は「A Iで生産された中敷きも効果に期待したい」と話した。

一般モニター
HPで募集

9日から

ファーストヘルステックはA Iの精度向上のため、九日から同社のホームページ（HP）で一般モニターを募る。測定は同社の直営店で郡山市の靴店「ベルガモット」で行う。モニター参加者には、A Iを使用してオーダーメイドした中敷きを提供する予定。

同社のHPアドレスは
<http://fht.co.jp/>